平成30年度家庭教育応援プロジェクト

郡山市PTA連合会東ブロック勉強会

○期　日　平成３０年８月１８日(土)
○場　所　郡山市労働福祉会館

情報モラル・メディア講演会
講　師　聖心女子大学非常勤講師
　　榎本　竜二　氏
演　題　「ネット時代を生きるこどもたち」
参加者　保護者１８１名　　教職員１８名
　　郡山家庭教育を支援する会４名
　　ブロック会議推進委員１名
　　事務局３名

【プログラムの実際】

県中域内では、子どもたちが健やかに成長していくために「コミュニケーション」をキーワードとして、「メディアコントロール」と「子どもの健康・体力向上」を家庭教育推進上の課題と捉えています。今回は、聖心女子大学の榎本竜二先生を講師にお招きし、「メディアコントロール」に焦点をあてて講演会を開催いたしました。講演では、具体的な事例をもとに、ネット時代の現状や注意点、トラブルへの対処法、子どもとの関わり方等について、大変興味深い示唆に富んだお話をいただきました。講演後の保護者の感想からは、「子どもに声をかけながら、一緒にネット社会に向き合っていきたい」「すべてを禁止するのではなく、親もきちんとした知識をもって対応していきたい」などといった気付きの声を多く聞くことができました。

【講演内容】

○　ネットで探せた情報だけが真実ではない
- ネット上には両方の人がいる
  「嘘をつこうと思って嘘をつく人」
  「嘘を信じてしまって広めてしまう人」

○　子どもに指導する時に気を付けること
- 理由の無い「禁止」は単なる「約束」
- 「罪」があっても「罰」が無いのはダメ
- 繰り返し注意しないと、そのルールは無かったことになる
- 他のことは混ぜずに、簡単に叱ること

※「見守り」と「放置」は違う。保護者として携帯電話・スマートフォンを与えた責任をとらなければならない。

○　使いすぎれば依存になる
- やめられなくなるのは中毒
- やめさせてもらえないのは「つながり依存」

※「子どもを信じている」という保護者が多いが「子どもの判断力」を信じてはいけない。身近に相談相手となる大人が必要（大人からの声かけの重要性）。

【榎本氏による講演の様子】

○　ネットで注意すべき点
- 　写真画像や書き込み時には位置情報が付加される
- 　自分の「楽しい」や「いやだ」という感覚と他の人の「楽しい」や「いやだ」は異なる
- 　ネットに出した個人情報は必ず特定され、拡散・悪用される（技術的に簡単）
- 　ネットに出した情報は決して消えない

○　トラブル？　すぐ相談（もちろん学校にも）
- 　個人で解決できないことがほとんど　　・　専門機関に相談を

○　保護者・大人としてできること
- 　ネット・情報機器の良い点と悪い点を伝える
- 　「～してはダメ」ではなく「～しよう」で話す
- 　子どもがどんなふうに使っているか関心を持つ
- 　ネット・情報機器の事件を話題に
- 　家庭でのルールを作り守る
- 　何でも相談できる雰囲気づくり

【講演後のグループトーク（進行：郡山家庭教育を支援する会）】

○　テーマ１：「子どもにスマホ・タブレット等を使わせるにあたっての悩み」
　　テーマ２：「これからスマホ・タブレット等をどのように使わせていくか」

○　発表（２グループ）
- 　親もスマホを利用する時間が長い
- 　親の姿を子どもも見ているので、親もスマホを使うルールを決めていきたい
- 　今の時代、スマホを使わざるを得ない環境にある
- 　家庭内でルールをつくってもゆるくなってしまう

○　指導・助言（榎本竜二氏）
- 　親の我慢も必要
- 　時間で切るのは難しいので、使用する場所を決める
- 　よい使い方が分からないので悪い使い方になってしまう
- 　便利さと怖さを教える
- 　家庭の意識の改善がスマホの使い方の改善となる

【グループトークの様子】

【発表により全体共有】

【榎本氏による指導・助言】

【講演会の感想】
- 　親もフェイスブックに熱中して、子どもから話しかけられても「ハイ、ハイ」とＦＢを優先させてしまったり。これじゃダメですね。親と子の会話を大事にしたいと思う。（小学校保護者）
- 　スマホをあずけたのは親の責任。約束をしてあずけたはずが、いつのまにかルールがなくなっている。言い続けることが大事。あきらめずもう一度ルールについて子どもと話し合いたい。（小学校保護者）
- 　ネット時代を生きるこの現実の中で、子どもたちが、良いこと、悪いことを自分で判断できるよう、私たち親も無関心ではいけないと思う。（中学校保護者）
- 　「知ること」「関心をもつこと」が大切、子どもとともに決めるルールづくりが大切で、親・大人もともに意識していくことが必要であると思った。（教職員）